

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報

第 11 号 (令和 2 年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Torii Ryuzo Memorial Museum
No.11 (for the fiscal year of 2020)

目 次

I 展覧事業	2	V 鳥居龍蔵生誕150周年記念事業 (開館10周年記念事業)	15
1. 常設展		1. 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」	
2. 企画展		2. 記念論集「鳥居龍蔵の学問と世界」	
3. その他の展示		3. シンポジウム事業	
4. 展示関係出版物		4. 国際交流	
II 調査研究事業	7	VI 管理運営	20
1. 令和2年度の調査概要		1. 組織・職員	
2. 研究成果の公表		2. 防災及び危機管理	
III 資料収集保存事業	9	3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会	
1. 館蔵資料数		4. 視察等来訪者	
2. 写真・映像等の提供		VII 観覧者統計	22
3. 資料閲覧		VIII 施設の概要	24
4. 資料整理ボランティア		1. 沿革	
5. 資料の保存		2. 施設の概要	
IV 普及教育事業	11	IX 例規	25
1. 普及行事			
2. 学校教育の支援			
3. 講師の派遣			
4. テレビへの出演			
5. インターネットによる情報発信			
6. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム			
7. 普及教育関係出版物			

I 展覧事業

鳥居龍蔵記念博物館の展示は、常設展と企画展、その他の展示からなる。

常設展は、鳥居龍蔵の生涯と研究業績を分かりやすく学ぶことができるよう3つの展示室で構成している。

東アジア各地における鳥居の調査ルートをLEDランプで示す床地図、遼王朝の陵墓の復元模型とともに、収集した資料や写真を通して龍蔵の足跡が学べる展示内容としている。土器パズルや民族衣装などの体験学習キット、映像資料が検索・閲覧できるパソコンや、随時展示替えする「トピックコーナー」も設置している。

ただし、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、土器パズルと民族衣装の使用を取りやめた。

また、常設展以外に、期間を限定して、特定のテーマに即して開催する企画展等がある。2年度は、企画展を1回、その他の展示を2回開催した。

1. 常設展

(1) 展示構成

■第1展示室 鳥居龍蔵の見たアジア

鳥居龍蔵のアジア調査の成果について、地域別に概観できるよう構成している。写真や民族・考古資料を幅広く紹介している。

1. 台湾・中国西南部
2. 中国東北部・内モンゴル
3. 遼
4. 朝鮮半島
5. 千島列島・サハリン・シベリア
6. 日本列島

■第2展示室 鳥居龍蔵の生涯

人類学を志した徳島での少年時代から、やがて東京に移ってからの研究、家族とともに携わった調査など、生涯にわたる足跡や多彩な交流の様子を紹介している。

1. 人類学への志
2. 家族とともに
3. 南アメリカ

■第3展示室 鳥居龍蔵から学ぶもの

検索機能を備えたパソコンを設置したり書籍を配架

したりして、鳥居の学問的な成果が学べるとともに、子どもも楽しめる体験学習キットを用意している。

1. 情報コーナー（パソコンを使った鳥居龍蔵撮影の写真の検索・閲覧や番組型コンテンツの提供）
2. 体験展示（カメラ体験）
3. 図書コーナー（鳥居龍蔵の著作などの閲覧用提供）

(2) トピックコーナーの展示替え

平成24年度から、第2展示室内の一部をトピックコーナーとし、整理の進んだ資料を中心に、随時展示替えを行っている。2年度の実績は次のとおりである。

●鳥居龍蔵のペルー調査

令和元年度〔11月12日（火）〕～4月5日（日）

展示資料点数4点（館蔵資料4点）

鳥居が描いた古代彫刻のスケッチや地図、息子の龍次郎が撮影した写真を紹介した。

●鳥居龍蔵のアマゾン川流域調査

4月7日（火）～7月12日（日）

展示資料点数9点（館蔵資料9点）

1937年に鳥居がブラジルのアマゾン川流域で行った調査について、写真や土器をもとに紹介した。



「鳥居龍蔵のアマゾン川流域調査」の展示状況

●鳥居龍蔵、マチュピチュ遺跡へ行く

7月14日（火）～11月29日（日）

展示資料点数6点（館蔵資料6点）

1937年に鳥居が行ったペルーのマチュピチュ遺跡の調査について、フィールドノートや息子の龍次郎が撮影した写真をもとに紹介した。



「鳥居龍蔵、マチュピチュ遺跡へ行く」の展示状況

●朝鮮半島から、妻・きみ子への便り

12月1日（火）～令和3年度〔4月4日（日）〕

展示資料点数6点（館蔵資料6点）

鳥居が妻のきみ子に宛てた絵はがきによって明らかになってきた、朝鮮半島調査の様相を紹介した。



「朝鮮半島から、妻・きみ子への便り」の展示状況

2. 企画展

(1) 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」

鳥居は生涯を通じて、台湾、中国西南部、中国東北部、朝鮮半島など東アジアを中心に、考古学・民族学・人類学的調査を行い、次々と成果を発表した。また、鳥居が生涯をかけて追い求めた学問は、彼の主要なテーマである日本人の起源についての研究と、それ以外の多様な視点による研究に大別することができる。

この企画展では、鳥居龍蔵生誕150周年と開館10周年の節目を記念して、開館以降の10年間に確認した資料を中心としながら、鳥居の学問とその世界について紹介した。

●主 催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●会 場 文化の森 多目的活動室

●会 期 2月13日（土）～3月21日（日）
（開館日数32日）

●展示構成とおもな展示資料

プロローグ 鳥居龍蔵の生涯と学問

- ・有史以前乃日本 当館蔵
- ・履歴書 当館蔵
- ・履歴書草稿 当館蔵

- ・文部省に提出した文書の手控え 当館蔵
- I 日本人の起源を探る
- (1) 先住民族を「アイヌ」と確信する
 - ・風俗画報 当館蔵
 - ・日本石器時代の住民 当館蔵
 - ・千島列島調査時のフィールドノート 当館蔵
 - ・竪穴住居跡の平面模式図とスケッチ 当館蔵
 - ・千島アイヌ 当館蔵
 - ・東京帝国大学理科大学紀要 第42冊第1編 当館蔵
- (2) 「固有日本人」を発見する
 - ・学位論文「満蒙の有史以前」草稿 当館蔵
 - ・南満州調査報告 当館蔵
 - ・東京帝国大学理科大学紀要 第36冊第8編 当館蔵
 - ・抜記帳 当館蔵
 - ・遼陽陸軍兵站病院敷地内の発掘現場の写真 東京大学総合研究博物館蔵
 - ・鳥居龍蔵からきみ子宛の絵はがき 当館蔵
 - ・大正六年度古蹟調査写真目録 当館蔵
 - ・朝鮮半島調査時の写真帳 当館蔵
- (3) 南方からの影響を見い出す
 - －インドネジアンとインドシナ民族の移動－
 - ・紅頭嶼（現蘭嶼）の集落の写真 当館蔵
 - ・台湾調査時のフィールドノート 当館蔵
 - ・「人類学研究 台湾の原住民（一）序編」の原稿 当館蔵
 - ・東京帝国理科大学紀要 第28冊第6編 当館蔵
 - ・台湾の山岳地帯に住む原住民族の男性の写真 当館蔵
 - ・中国貴州省の苗族の集合写真 当館蔵
 - ・貴州省苗人分布図 当館蔵
 - ・中国西南部調査時のフィールドノート 当館蔵
 - ・銅鼓・銅鐸関係のメモ 当館蔵
 - ・Alte Metalltrommeln aus Südostasien 当館蔵
 - ・苗族調査報告 当館蔵
 - ・銅鐸（復元） 徳島県立博物館蔵
- (4) 日本人起源論の確立
 - ・本山彦一肖像写真 当館蔵
 - ・大和石器時代遺蹟調査（行程メモ） 当館蔵
 - ・鳥居の近畿調査時のメモ 当館蔵
 - ・国府遺跡の人骨出土状況断面図 当館蔵
 - ・大正6年10月9日付鳥居龍蔵宛本山彦一書簡 当館蔵
 - ・徳島公園城山石器時代遺蹟 徳島県立図書館蔵
 - ・徳島公園城山遺跡遺物集 徳島県立図書館蔵
 - ・徳島公園城山第二貝塚遺物集 徳島県立図書館蔵

4 展覧事業

- ・ 第三号洞窟貝塚平面図 徳島県立図書館蔵
- ・ 須木一胤の講演会聴講記録 徳島県立博物館蔵
- ・ 「阿波名勝」第2号 徳島県立博物館蔵

II 多様な視点に基づく研究

(1) 遼の文化を探る

- ・ 慶州城の建物配置略測図 当館蔵
- ・ 遼上京城内残存白衣観音石造考証 一 当館蔵
- ・ 考古学上より見たる遼之文化 当館蔵
- ・ 採集された瓦磚類 当館蔵
- ・ 道宗哀冊蓋の拓本 当館蔵
- ・ 遼の遺跡に関する鳥居の自筆ノート 当館蔵

(2) 巨石文化を発見する

- ・ フィールドノート 当館蔵
- ・ 大洲のドルメン状の巨石遺構 当館蔵

エピローグ 未完の研究－鳥居龍蔵の夢の痕跡－

- ・ 遼関係原稿 当館蔵
- ・ 苗族之研究論文原稿 一 当館蔵

● 展示資料総点数 101点 (館蔵資料 93点)

● 観覧料

一般200円 (65歳以上100円)、高校・大学生100円、
小・中学生50円

● 観覧者数 546人

● 関連行事

① 展示解説

第1回：日 時 2月14日 (日)
13:30～14:30

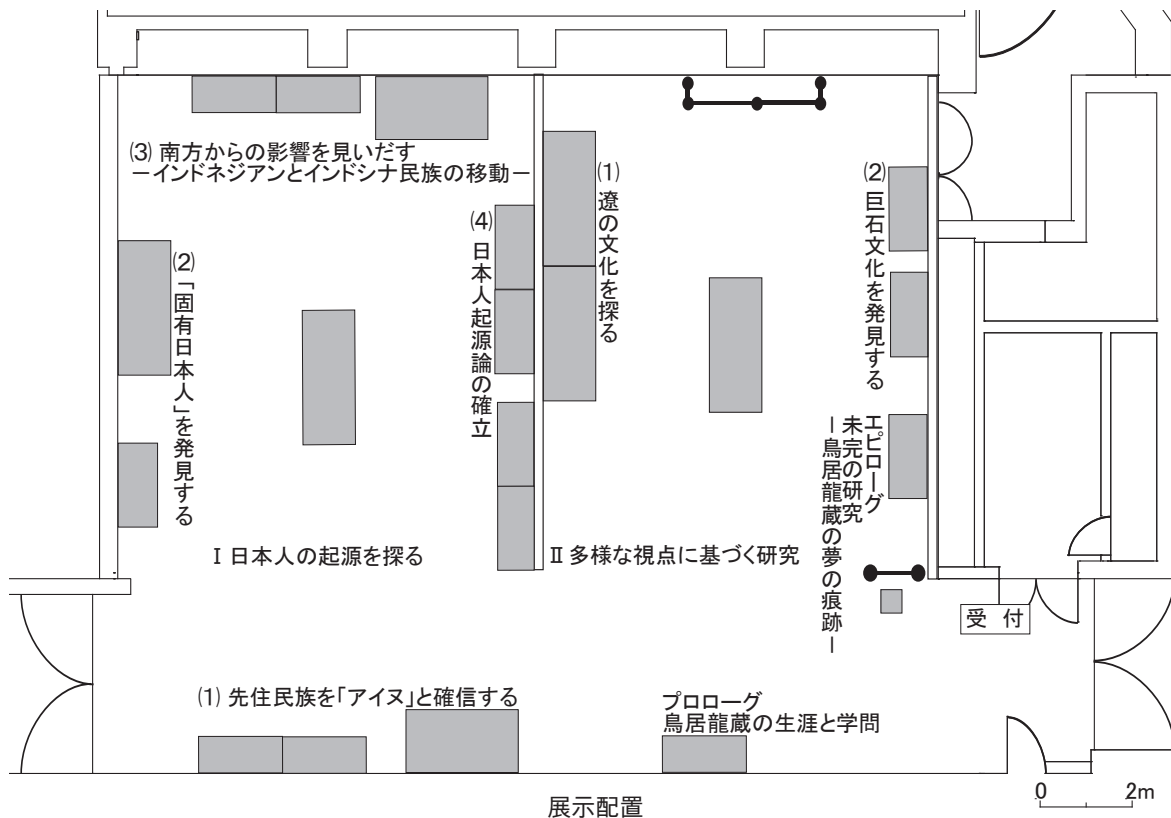
参加者 15人

第2回：日 時 2月28日 (日)
13:30～14:30

参加者 5人

第3回：日 時 3月14日 (日)
13:30～14:30

参加者 20人



企画展

鳥居龍蔵の学問と世界

2021
2.13(土)-3.21(日)

会場：文化の森 多目的活動室

●観覧時間：9:30-17:00 ●休館日：日曜日
●観覧料：一般 200円/高校生 100円/小学生 50円
※6歳未満の幼児は無料。4歳以下は無料。小学生以上の幼児は有料。幼児は大人と一緒に入場し、大人が責任をもちます。小学生以上は入場料を払って入場してください。
●主催：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館/徳島県立博物館
●協力：国立民族学博物館

文化の森総合公園
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
〒770-8070 徳島県八幡町内山
TEL 0876-62-2544 FAX 0876-62-2197
https://www.kokurinomori-museum.kanazawa-nippon.go.jp

鳥居龍蔵生誕150周年記念 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館開館10周年記念

企画展 鳥居龍蔵の学問と世界

2020年度は、鳥居龍蔵(1870-1953)の生誕150周年という節目であり、当館の開館10周年にもあたり、遠く、生涯を通じて、台湾、中国西部部、中国東北部、朝鮮半島など東アジアを中心に、考古学・民族学・人類学的調査を精力的に行い、次々と成果を挙げました。その主要な研究テーマは、日本人の起源を明らかにすることであり、また一方で、中国東北部・内モンゴルにあった王朝「遼」(10世紀-11世紀)や、巨石文化に関する研究なども行いました。これらのことは、当館が収集し、整理を兼ねている膨大な遺構や文書、ノートなどの研究資料からその片鱗をうかがうことができます。本企画展では、彼が生きていた遠い東の学問とその世界について紹介します。

【展示構成】
プロローグ 鳥居龍蔵の生涯と学問
I 日本人の起源を探る
II 多様な視点に基づく研究
III 未完の研究

【観覧時間】
2月14日(日)/2月28日(日)/3月14日(日)
13:30-14:30

【観覧料】
一般 200円/高校生 100円/小学生 50円
6歳未満の幼児は無料。4歳以下は無料。小学生以上の幼児は有料。幼児は大人と一緒に入場し、大人が責任をもちます。小学生以上は入場料を払って入場してください。

【主催】
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館/徳島県立博物館
【協力】
国立民族学博物館

チラシ (左：表面 右：裏面)



プロローグ 鳥居龍蔵の生涯と学問



I 日本人の起源を探る



II 多様な視点に基づく研究



エピローグ 未完の研究

3. その他の展示

(1) 2階中央ロビーでの展示

常設展示室前の2階中央ロビーで、小規模な展示を行った。

- 鳥居龍蔵生誕150周年記念「鳥居龍蔵とは!？」
期 間 7月21日(火)～11月29日(日)
展示資料点数 9点(館蔵資料9点)

鳥居龍蔵の研究活動の特徴を、「独学で考古学・人類学の研究を始めたこと」、「並外れた行動力でアジア中を駆け回ったこと」、「家族全員でフィールドワークを行ったこと」の3点に求め、それらにもとづいて鳥居の生涯や研究を紹介した。



「鳥居龍蔵とは!？」の展示風景

(2) 文化の森開園30周年記念共同企画展 「文化遺産を後世に伝えるーとくしまデジタルアーカイブー」

文化の森開園30周年を記念し、文化の森6館と(公財)徳島県建設技術センターが共同で開催した企画展。文化の森5館が所蔵する資料をデジタル化した「とくしまデジタルアーカイブ」の紹介を中心に構成したも



文化の森開園30周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝えるーとくしまデジタルアーカイブー」の展示風景

ので、当館は鳥居龍蔵の調査ノートの高精細画像と実物を展示した。

- 主 催 文化の森6館、(公財)徳島県建設技術センター
- 期 間 11月3日(火)～11月15日(日)
- 会 場 近代美術館ギャラリー
- 入 場 者 数 1,311人
- 展示資料点数 3点(館蔵資料3点)

(3) 2020年度文化の森人権問題啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権問題啓発展(識字学級生の作品を中心とする展示)を行った。

- 主 催 文化の森6館、徳島県教育委員会人権教育課
- 期 間 12月9日(水)～12月15日(火)
- 会 場 近代美術館ギャラリー(展示)
ミニシアター(ビデオ上映)
- 入場者数 447人

4. 展示関係出版物

(1) 企画展図録

- 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」パンフレット
2021年2月13日発行、A4判、8ページ、3,000部



企画展パンフレット「鳥居龍蔵の学問と世界」表紙

Ⅱ 調査研究事業

鳥居龍蔵記念博物館では、設置の趣旨にもとづき、鳥居龍蔵とその周辺に関する調査研究を進めることで、最新の情報を盛り込んだ展示や内容豊かな普及活動による鳥居龍蔵の顕彰を図るための基盤整備を進めている。とくに、館蔵資料に即した調査研究に重点を置いて取り組んでいる。

令和2年度は、専任の学芸スタッフ3名を中心に、兼務職員とともにこの業務に携わっている。

1. 令和2年度の調査概要

(1) 館外研究者との共同調査

館外の研究者とともに資料調査を行い、相互に研究の進展を図った。以下に、共同研究者とテーマを記す。

①吉開将人氏（北海道大学大学院）

鳥居龍蔵の西南中国調査に関する館蔵資料の調査及び意見交換を行った。

②国立民族学博物館共同研究「モンゴルに関する画像記録を用いた地域像の再構築」プロジェクト

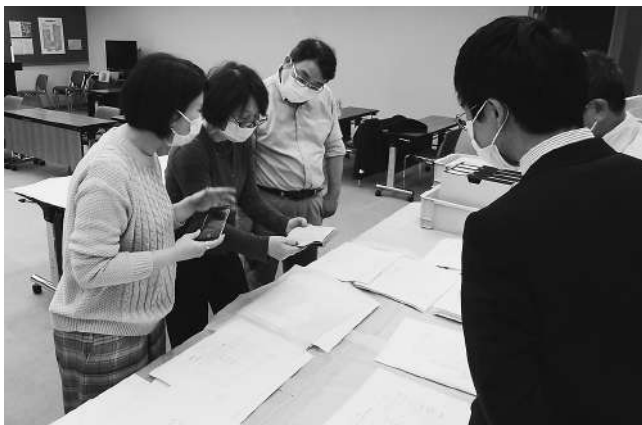
（代表 国立民族学博物館 小長谷有紀氏）一行 鳥居龍蔵の内モンゴル調査に関する資料について調査及び意見交換を行った。

③中生勝美氏（桜美林大学）

鳥居龍蔵の慶陵調査に関する資料について調査及び意見交換を行った。

④ボルジギン・フスレ氏（昭和女子大学）

鳥居龍蔵の外モンゴル調査に関する館蔵資料の調査及び意見交換を行った。



館外研究者との共同調査の様子（国立民族学博物館共同研究一行）

2. 研究成果の公表

(1) 鳥居龍蔵記念博物館研究報告第4号の発行

2020年8月31日発行、A4判、166ページ、400部

(*印：館外研究者)

論説

佐宗亜衣子*・米田 穰*・尾寄大真*・大森貴之*・諏訪 元*：東京大学総合研究博物館収蔵の城山第2号貝塚出土人骨。p.1-13.

湯浅利彦*：徳島市城山貝塚発掘調査の復元的研究（下）-鳥居龍蔵等による1922（大正11）年発掘調査の出土遺物の様相-。p.15-102.

石井伸夫：鳥居龍蔵による大洲巨石調査の内容と意義。p.103-131

長谷川賢二：鳥居龍蔵記念博物館における高等学校との連携の試み -2014~15年度「博学連携推進モデル事業」について-。p.133-142.

資料紹介

岡本治代：鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅱ。p.143-166.

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館	
研究報告	
第4号	
2020年8月	
目次	
論説	
東京大学総合研究博物館収蔵の城山第2号貝塚出土人骨	佐宗亜衣子・米田 穰・尾寄大真・大森貴之・諏訪 元 1-13
徳島市城山貝塚発掘調査の復元的研究（下）	湯浅利彦 15-102
鳥居龍蔵等による1922（大正11）年発掘調査の出土遺物の様相	湯浅利彦 15-102
鳥居龍蔵による大洲巨石調査の内容と意義	石井伸夫 103-131
鳥居龍蔵記念博物館における高等学校との連携の試み	長谷川賢二 133-142
2014~15年度「博学連携推進モデル事業」について	長谷川賢二 133-142
資料紹介	
鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅱ	岡本治代 143-166

研究報告 表紙

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

〈学術的著述〉

岡本治代 (2020. 12) 近畿調査の成果とその意義.
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会
編「鳥居龍蔵の学問と世界」. 思文閣出版: 245-
273.

石井伸夫 (2020. 12) 徳島における調査活動とその
意義. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を
語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」. 思文閣出版:
292-317.

石井伸夫 (2020. 12) 鳥居龍蔵の学説形成における「南
方諸民族」把握の試み. 徳島県立鳥居龍蔵記念博
物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵の学問と世
界」. 思文閣出版: 411-432.

松永友和 (2020. 12) 大正期の鳥居龍蔵と本山彦一
- 本山彦一書簡の紹介を中心に -. 徳島県立鳥居
龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居龍蔵
の学問と世界」. 思文閣出版: 433-453.

大橋俊雄 (2020. 12) 徳島城復元図の制作と城山貝塚.
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会
編「鳥居龍蔵の学問と世界」. 思文閣出版: 454-
463.

長谷川賢二 (2020. 12) 鳥居龍蔵の未刊原稿群と学
知のあり方 - 中国からの帰国時作成目録に注目し
て -. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を
語る会編「鳥居龍蔵の学問と世界」. 思文閣出版:
464-481.

下田順一 (2020. 12) 鳥居龍蔵年譜 (抄). 徳島県立
鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編「鳥居
龍蔵の学問と世界」. 思文閣出版: 523-538

〈一般著述〉

下田順一 (2020. 9) (四国お宝巡礼) マチュピチュ
遺跡. 朝日新聞 (徳島版) 2020. 9. 4

石井伸夫 (2020. 9) 鳥居博士の「お洒落」と『抜記帳』.
鴨東通信, (111). : 12-13.

石井伸夫 (2020. 10) (四国お宝巡礼) ドルメン. 朝
日新聞 (徳島版) 2020. 10. 15

岡本治代 (2020. 12) (四国お宝巡礼) 遼代の施釉瓦.
朝日新聞 (徳島版) 2020. 12. 9

長谷川賢二 (2021. 1) (四国お宝巡礼) 写真帳. 朝
日新聞 (徳島版) 2021. 1. 20

小倉和也 (2021. 2) (四国お宝巡礼) 中国貴州省の
苗族の資料. 朝日新聞 (徳島版) 2021. 2. 25

Ⅲ 資料収集保存事業

鳥居龍蔵記念博物館では、鳴門市にあった旧館（鳥居記念博物館）から引き継いだ資料の詳細な調査・整理やデータ登録、保存を資料収集保存事業の中心としている。令和2年度は、会計年度任用職員2名の援助を得て作業を進めた。

また、鳥居龍蔵に関連する資料の新規購入にも努めた。2年度以降も引き続き、新規収集を心がけていきたい。

1. 館蔵資料数

考古資料・民族資料・書籍類・写真・拓本・自筆原稿・書簡等の総数は約70,000点である。調査・整理を継続しており、実数は未だつかめていないが、未開封だった資料の精査が進んできたため、総数は増加傾向にある。

また、2年度は、今後の企画展等の開催計画や情報収集、展示資料の充実を考慮して、一次資料や参考図書を計200点購入した。

2. 写真・映像等の提供

- ①「やし乃露」の写真 1点
四宮義正氏（貸出）
- ②鳥居龍蔵肖像写真ほか 5点
エルシーブイ株式会社（貸出、放映）
- ③ペルーで発掘調査中の鳥居龍蔵らの写真 1点
株式会社思文閣出版（貸出、出版物掲載）
- ④鳥居龍蔵肖像写真 1点
文京区役所アカデミー推進課
（貸出、出版物掲載、パネル展示）
- ⑤第5回内国勸業博覧会絵はがきの写真 1点
石尾和仁氏（貸出、出版物掲載）
- ⑥内モンゴル調査中の鳥居龍蔵家族の写真ほか 3点
早稲田大学教育・総合科学学術院
（貸出、出版物掲載、パネル展示）
- ⑦鳥居龍蔵肖像写真 1点
とくしま社会運動資料センター

（貸出、出版物掲載）

- ⑧武蔵野会の千葉県野田市方面見学会集合写真ほか 2点
公益財団法人興風会（貸出、出版物掲載）
- ⑨満洲旅行案内の写真 1点
鳴門市ドイツ館（貸出、出版物掲載）

3. 資料閲覧

- ①ワールマンハなどで採集の瓦ほか 16点
早稲田大学大学院生 呉 心怡氏
- ②蒙文初等算術ほか 2点
名古屋大学大学院生 呉 蘭蘭氏

4. 資料整理ボランティア

鳥居龍蔵記念博物館の収蔵資料及びデータベースの公開に向けて、平成25年度から歴史文化倶楽部（シルバー大学校及び同大学院の歴史文化講座修了者の会）の会員3名からなるボランティアの協力を得て資料整理作業を進めている。

2年度も月2回程度のペースで活動を行い、必要に応じて有識者の助言を得ながらデータの蓄積を図った。活動実施日は次のとおりである。

- 第1回 6月10日（水）
- 第2回 6月23日（火）
- 第3回 7月8日（水）
- 第4回 7月29日（水）
- 第5回 9月8日（火）
- 第6回 9月18日（金）
- 第7回 10月9日（金）
- 第8回 10月21日（水）
- 第9回 11月6日（金）
- 第10回 11月17日（火）
- 第11回 12月8日（火）
- 第12回 1月26日（火）
- 第13回 3月24日（水）



ボランティア活動の様子



空気環境のモニタリングの様子

5. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、企画展で展示した資料や資料整理を終えた資料などは、収蔵庫への搬入に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。なお、当該資料の燻蒸作業は、文化財専門の燻蒸業者に依託している。2年度は、燻蒸を1回行った。

(2) 収蔵庫における環境管理

収蔵庫への出入りなどにもなると、害虫やカビなどが侵入する恐れがあることから、定期的に清掃を実施し、虫菌害の防除に努めている。また、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行い、適正な環境が維持されていることを確認した。

(3) 常設展示室における環境管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。そこで、害虫への対策として、防虫剤及びトラップの設置による文化財害虫のモニタリングを行っている。2年度も防虫剤及びトラップの設置を行った。

IV 普及教育事業

鳥居龍蔵記念博物館における普及教育事業は、鳥居龍蔵の顕彰を推進するための県民に対する情報発信の意味をもち、重要である。また、調査研究や資料収集保存の成果を示すという意味でも、展示とともに意義深い事業といえる。

1. 普及行事

令和2年度は、鳥居龍蔵セミナーや企画展関連行事などを行い、普及啓発に努めた。

■鳥居龍蔵セミナー

この事業は、鳥居龍蔵の学説や調査活動などをそれぞれのテーマに沿って、専門講座を実施することにより、鳥居の生涯や業績を多くの方々に理解してもらい、その顕彰に寄与するものである。

- ・ 9月6日(日)
第1回「鳥居龍蔵と南方諸民族－異文化把握の試み－」 42人
- ・ 9月27日(日)
第2回「鳥居龍蔵のブラジル調査を振り返る」 38人
- ・ 10月18日(日)
第3回「鳥居龍蔵の第5回台湾調査の意味するもの－明治末期の日本と台湾を考える－」 26人
- ・ 11月8日(日)
第4回「城山貝塚発掘の影響－住吉派画家・須木一胤の残した手帳から－」 17人
- ・ 12月13日(日)
第5回「西洋世界と鳥居龍蔵」 28人



鳥居龍蔵セミナーの様子

- ・ 1月17日(日)
第6回「武蔵野会の設立と東京府下の史跡保護運動」 28人

■企画展関連行事

- ・ 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」展示解説
第1回 2月14日(日) 15人
第2回 2月28日(日) 5人
第3回 3月14日(日) 20人
- ・ 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会」
3月21日(日) 100人

■文化の森共同イベント

例年、文化の森の各館が共同で、年間4回開催しており、当館も参加していたが、2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

11月3日、2月11日に、二十一世紀館が実施したウォークラリーに、当館も参画した。

■その他

- ・ クイズラリー
徳島県立博物館が実施しているクイズラリー(対象高校生以下)に、当館も参画した。2年度は、延べ933人の参加があった。

2. 学校教育の支援

徳島県立博物館が主催となり開催している「教員のための博物館の日 in 徳島」に、当館も例年参加していたが、2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、中止となった。

3. 講師の派遣

外部機関・団体等からの講師派遣依頼について、業務に支障のない範囲で、普及教育事業の一環として対応している。2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初依頼されたものが中止となったため、行わなかった。

4. テレビへの出演

事業のPRのためのテレビへの出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 4月7日(火) 下田順一 NHK徳島放送局ニュース(トピックコーナー「鳥居龍蔵のアマゾン川流域調査」について)
- 7月14日(火) 下田順一 NHK徳島放送局ニュース(トピックコーナー「鳥居龍蔵、マチュピチュ遺跡へ行く」について)
- 7月25日(土) 下田順一 四国放送ニュース(トピックコーナー「鳥居龍蔵、マチュピチュ遺跡へ行く」について)
- 8月21日(金) 下田順一 テレビトクシマ「朝ごはん食べた?」での紹介(トピックコーナー「鳥居龍蔵、マチュピチュ遺跡へ行く」について)
- 8月30日(日) 小倉和也 NHK徳島放送局ニュース(鳥居龍蔵生誕150周年記念 ロビー展示「鳥居龍蔵とは!?」について)
- 2月13日(土) 下田順一 NHK徳島放送局ニュース(企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」について)
- 2月13日(土) 下田順一 四国放送ニュース(企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」について)

5. インターネットによる情報発信

(1) ホームページの公開

鳥居龍蔵記念博物館のホームページを開設し、事業の紹介や学習教材の提供などを行っている。主な内容は次のとおりである。

- ・利用案内(開館日、観覧料、交通アクセス等)
- ・学校教育での利用(観覧料の免除と手続き、出前授業)の案内
- ・常設展の紹介
- ・「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」の紹介
- ・鳥居龍蔵生誕150周年記念事業の紹介
- ・鳥居龍蔵についての紹介
- ・研究報告や一部の図録類のダウンロードコーナー
- ・ご意見コーナー

(2) デジタルアーカイブ

当館を含む文化の森総合公園文化施設では、元年度に引き続き、「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施した。

当館では、新たに約60点の資料を撮影した。これらは、3年度に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館デジタルアーカイブ」において追加公開の予定である。

(3) 資料データベースの公開

2年度には、資料データベースを公開した。試行的な段階であり、データ数は少ないが、今後追加公開していく予定である。

6. 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な学者である。彼は、人類学、民族学、考古学など多様な手法を駆使し、当時世界最先端の業績をあげたが、その礎は、地元の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、その成果を世に問いかけた少年時代の活動にあったといっても過言ではない。

このような鳥居龍蔵の取り組みを記念し、徳島の中学生・高校生による歴史文化に関する自主的な研究活動を後押しすることにより、人材の育成を図ることを目的に、平成28年度から実施しており、令和2年度で5回目となった。

研究発表後には特別研修会として企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」の展示解説を行った。

なお、この事業は26・27年度に行った博学連携推進モデル事業(年報5・6号参照)の成果を踏まえて行うこととしたものである。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●後援

徳島県博物館協議会

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること(必ずしも徳島県内に限定しない)、②鳥居龍蔵に関連することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク(現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査)を行い、その結果をもとに考察すること、②インターネットを効果的に活用して、テーマに関連する調査研究をし、考察をすることとした。

●募集期間

8月9日(日)～1月10日(日)(レポートの提出をもって応募とする)

●対象(応募資格)

県内在住の中学校・高等学校及び特別支援学校(中学部、高等部)の生徒(中等教育学校の生徒及び高等

専門学校3年生までの学生を含む)

※個人・グループなど、どのような形態でも参加可能

●募集結果

特定の地域の歴史・文化に関するテーマで、中学生の部3件、高校生の部5件の応募があり、すべてフォーラムでの口頭発表の対象とした。

●研究発表

①日程 2月21日(日) 10:00~16:30

中学生の部 10:00~12:00

高校生の部 13:20~16:30

②会場 文化の森イベントホール

③参加者 90人

●審査・表彰

①審査委員

平井松午氏(徳島大学名誉教授)

中村 豊氏(徳島大学教授)

町田 哲氏(鳴門教育大学准教授)

霜田泰徳氏(徳島県中学校教育研究会社会部会長・阿南市立阿南第二中学校長)

藤川卓司氏(徳島県高等学校教育研究会地歴学会会長・徳島県立海部高等学校長)

②審査結果

審査の結果は次の通りであった。

〈中学生の部〉

優秀賞「僕が見つけた「石器」の謎に迫る
～出土した「石」が「石器」である
可能性を探る～」

鳴門教育大学附属中学校 大和千哲

奨励賞「日本三祇園の1つと伝わる穴喰八坂
神社の謎に迫る!～真夏のひな祭り
編～」

海陽町立海陽中学校 三浦美貴

同上「アイヌについての一考察」

鳴門教育大学附属中学校

小笠原定爾

〈高校生の部〉

優秀賞「なぜ、徳島女師高女の修学旅行は大陸に渡ったのか～修学旅行資料から見た大陸へのまなざし～」

徳島県立城東高等学校

梅村勇尽、庄野実里、桑原義毅、氏久菜々美

優秀賞「阿波国にやってきた英国公使ハリー・パークス」

徳島県立小松島高等学校 小松島歴史クラブ
(竹内彩夏、島崎美怜、森紅志郎、中村信志)

奨励賞「そごう閉店から徳島を考える～コロ

ナ禍で可能な研究を目指して～」

徳島生涯教育研究会

香川貴宣、久保璃於、齋藤誠一郎、友成泰聖、山口秀人、吉田真優、廣田智行、金森陽大、山本あすか

同上「徳島県の高地蔵の研究～新たな発見～」

徳島文理高等学校 郷土研究部

今井滉教、松井葉音、吉田和矢

同上「戦国期における木津城の役割」

徳島県立鳴門渦潮高等学校 西谷漸



発表の様子



表彰の様子

●関連行事

①ガイダンス講座 8月9日(日)

ガイダンス講座受講希望者を対象とし、現地を巡って基礎的な調査を体験してもらい、自主研究のスキル向上を目指した。

行先 徳島城跡、城山貝塚、徳島市立德島城博物館、錦竜水、滝葉師寺、徳島市新町橋東公園(以上、徳島市)

参加者 10人



ガイドンス講座の様子

②県外研修会 1月24日(日)

新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

7. 普及教育関係出版物

- 令和元年度 鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書

令和2年6月30日発行、A4判16ページ、1,000部



「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム報告書」表紙

V 鳥居龍蔵生誕150周年記念事業 (開館10周年記念事業)

鳥居龍蔵記念博物館では、鳥居龍蔵生誕150周年記念と開館10周年の節目の年を迎えたことにより、次のとおり記念事業を行った。

1. 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」

詳細は、「I 展覧事業 2. 企画展 (1) 企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」」を参照 (p.3～6)。

2. 記念論集「鳥居龍蔵の学問と世界」

当館で調査を行ったことのある国内外の研究者、鳥居龍蔵を語る会のメンバー、当館職員が論文や資料紹介を執筆したもので、当館と鳥居龍蔵を語る会が共同で編集した。徳島新聞1月31日付で紹介されるなど、好評を得た。

鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編、2020年12月20日発行、A5判、556ページ、発行所 思文閣出版

(*印：館外研究者)

I 鳥居龍蔵を語る

天羽利夫*：人類学者鳥居龍蔵の学問と人物像. p.3-44.

II 世界の中の鳥居龍蔵

ラファエル・アバ*：鳥居龍蔵と西洋の人類学界－学問は国境を越えて－. p.47-64.

齋藤玲子*：千島・樺太調査. p.65-86.

吉井秀夫*：朝鮮半島調査. p.87-110.

宮岡真央子*：台湾調査－第1回、第2回を中心に－. p.111-134.

吉開将人*：『人類学上より見たる西南支那』を読む－中国近代史研究史料としての鳥居龍蔵の旅日記－. p.135-158

佐川正敏*：遼宋～蒙元代の軒平瓦における造瓦変革と朝鮮半島・日本への影響. p.159-186.

董 新林* (監訳：佐川正敏*)：中国遼上京における考古学的研究. p.187-202.

関 雄二*：鳥居龍蔵とアンデス文明との出会い. p.203-226

III 鳥居龍蔵、列島を歩く－国内調査の軌跡－

中村 豊*：戦後日本考古学史における鳥居龍蔵の再評価. p.229-244.

岡本治代：近畿調査の成果とその意義. p.245-273.

高島芳弘*：鳥居龍蔵の弥生式土器観－『諏訪史』第1巻編纂の頃－. p.274-291.

石井伸夫：徳島における調査活動とその意義. p.292-317.

湯浅利彦*：徳島市城山貝塚の発掘調査とその意義. p.318-338.

佐宗亜衣子*：城山第2号貝塚から出土した人骨－発掘記録からの検証－. p.339-360.

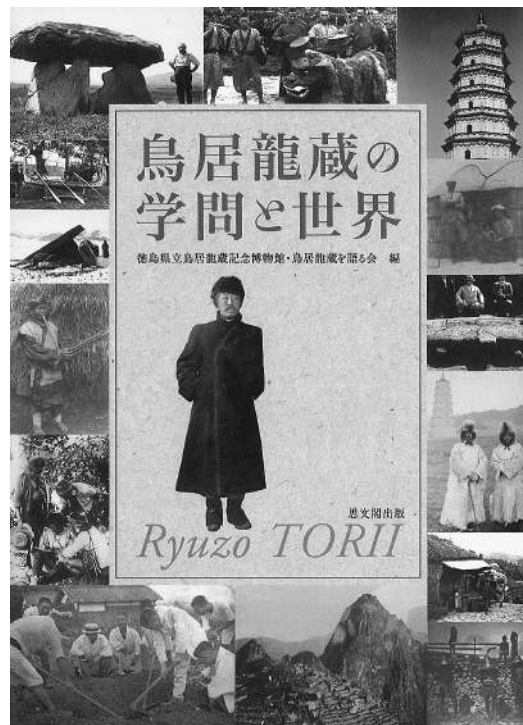
氏家敏之*：鳥居龍蔵と武蔵野会－武蔵野会の設立と東京府下の史跡保存活動－. p.361-376.

橋本達也*：九州南部における鳥居龍蔵の調査. p.377-393.

IV 検証・鳥居龍蔵－資料整理の最前線－

石尾和仁*：鳥居龍蔵の台湾調査に関する諸資料. p.397-410.

石井伸夫：鳥居龍蔵の学説形成における「南方諸民



「鳥居龍蔵の学問と世界」表紙

族」把握の試み. p.411-432.

松永友和：大正期の鳥居龍蔵と本山彦一ー本山彦一書簡の紹介を中心にー. p.433-453.

大橋俊雄：徳島城復元図の制作と城山貝塚. p.454-463.

長谷川賢二：鳥居龍蔵の未刊原稿群と学知のあり方ー中国からの帰国時作成目録に注目してー. p.464-481.

V 資料の窓

大原賢二*：新聞が報じた鳥居龍蔵の鹿児島県調査. p.485-504.

鳥居 喬*：鳥居龍蔵の中国山東省調査. p.505-522.

下田順一：鳥居龍蔵年譜（抄）. p.523-538.

3. シンポジウム事業

一般財団法人自治総合センターのシンポジウム助成事業の採択を受け、次の事業を開催した。

(1) 鳥居龍蔵生誕150周年記念

全国高校生歴史文化フォーラム2020 in 徳島

歴史文化に関する高校生の自主研究を全国から公募し、フォーラム（発表会）を実施した。

なお、徳島県内在住の高校生は、別途実施した「鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」（p.13~15参照）の上位2組が、全国高校生歴史文化フォーラムに参加することとした。

●主催

徳島県

一般財団法人自治総合センター

●後援

総務省

●募集期間

7月20日（月）～12月5日（土）

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること、②鳥居龍蔵に関することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関連する博物館や資料館を利用すること、③調査内容や結果からの考察を、文章、図表、地図、写真等を用いて表現することとした。

●対象（応募資格）

高等学校及び特別支援学校（高等部）の生徒（中等教育学校の後期課程在籍の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

*個人、グループなど、どのような形態でも参加可能

●審査委員

大石雅章氏（鳴門教育大学理事・副学長）

平井松午氏（徳島大学名誉教授）

中村 豊氏（徳島大学教授）

町田 哲氏（鳴門教育大学准教授）

関口 寛氏（四国大学准教授）

藤川智之氏（徳島県埋蔵文化財センター総務課長）

●審査

①1次審査（書類選考）を行い、表彰を行った。

②1次審査の結果、上位の3組については、全国フォーラム（研究集会）に参加し、口頭報告を行ってもらい、最優秀者を選考し、表彰した。

●1次審査（書類審査）の結果

【優秀賞】

・「下妻藩における参勤交代について」

茨城県立古河中等教育学校 佐久間祐樹

・「石橋宿と馬市～明治から始まる町おこし～」

栃木県立石橋高等学校 歴史研究部C班

（阿久津日和、田代千夏、本田夢歩）

・「対馬黒曜石の調査・分析による産地推定

～対馬の原始・古代の交易を知る～」

長崎県立上対馬高等学校 長崎菜々子

【入賞】

・「下野市の江戸時代と物流～吉田河岸が繋ぐ東日本の物流～」

栃木県立石橋高等学校 歴史研究部A班

（幢崎真衣、高山桃佳、荒川真衣、神山怜菜、古賀柚香、西岡諭）

・「古代上毛野国の繁栄とその要因～陸及び河川の交通路に着目して～」

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 菊池悠真

・「明智光秀の謎の前半生を追う 史料とフィールドワークからの検証」

岐阜県立関高等学校 地域研究部（藤井大輝、

山内康誠、小山政亮）

・「家康を恐れさせた両河内～武田遺臣団 遺された背後の刃～」

静岡学園高等学校 歴史研究部（小澤颯太、

森田ゆず、小原陽音）

・「葦山代官江川坦庵の功績と評価について」

静岡県立葦山高等学校 文系探究コース歴史班

（大野楓夏、楠萌杏菜、永井あや、平山文子）

- ・「蛇・妖怪から見る伊豆の人々の精神構造」
静岡県立韭山高等学校 文系探究コース物語研究
班（羽畑海哉、坂本野花、宇野陽佑、勝又彩実、
板垣健太郎、村越里緒、亀浦ももか）

【奨励賞】

- ・「戦時下の栃木県における朝鮮人差別」
栃木県立石橋高等学校 歴史研究部B班
（原大祐、早乙女楓花、塩澤征来、二ノ宮渉、細野花、
屋敷亮太）
- ・「岐阜えだまめ」
鶯谷高等学校 高木美実

【佳 作】

- ・「織田信長の東美濃攻略戦」とまちづくり」
岐阜県立関高等学校 地域研究部（田中莉子、
藤村彩須果）
- ・「国史跡 岐阜城の新しい発見」
鶯谷高等学校 八木七美
- ・「駅の裏にひっそりと佇むねずみ小僧次郎吉の碑」
鶯谷高等学校 永塚七夏
- ・「関ヶ原町の観光業」
鶯谷高等学校 高野柚日
- ・「福岡城」
福岡県立修猷館高等学校 山口峰輝、中川愛菜、
八田朔太郎、松嶋亮幸
- ・「織幡神社の起源について～織工女の伝説と縫殿
神社～」
福岡県立宗像高等学校 歴史研究会（永井真衣、
瀬戸山奏）
- ・「定光寺前遺跡出土の貿易陶磁器からみた中世沓
岐の研究」
長崎県立壱岐高等学校 東アジア歴史・中国語
コース歴史学専攻（吉本大悟、竹川柊、益中大輝、
富田悠斗、大島透優）
- ・「七のまち阿久根」の研究～三国名勝図会から～」
鹿児島県立鶴翔高等学校 地域文化研究同好会
（倉津優奈、入徳舞衣、的場翔、下平拓真）

●フォーラム（発表会）

- ①日 程 3月6日（土）13：00～16：30
 - ②会 場 徳島市シビックセンター（さくらホール）
 - ③参加者 60人（オンライン参加を含む）
 - ④題目・発表者（発表順）及び審査結果
- ・「対馬黒曜石の調査・分析による産地推定～対馬
の原始・古代の交易を知る～」
長崎県立上対馬高等学校 長崎菜々子 [オンライ
ン参加]
 - ・「下妻藩における参勤交代について」
茨城県立古河中等教育学校 佐久間祐樹 [オンラ

イン参加]

- ・「阿波国にやってきた英国公使ハリー・パークス」
徳島県立小松島高等学校小松島歴史クラブ
（竹内彩夏、島崎美怜、森紅志郎、中村信志）
- ・「石橋宿と馬市～明治から始まる町おこし～」
栃木県立石橋高等学校 歴史研究部C班
（阿久津日和、田代千夏、本田夢歩）[オンライン
参加]
- ・「なぜ、徳島女師高女の修学旅行は大陸に渡ったの
か～修学旅行資料から見た大陸へのまなごし～」
徳島県立城東高等学校 梅村勇尽、庄野実里、
桑原義毅、氏久菜々美

【最優秀賞】

- ・「対馬黒曜石の調査・分析による産地推定～対馬
の原始・古代の交易を知る～」
長崎県立上対馬高等学校 長崎菜々子



オンライン発表の様子



会場での発表の様子

(2) 鳥居龍蔵生誕150周年記念国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会—その学問と資料の意義を問う—」

鳥居龍蔵が生涯を通して実践した「学問」と、これと一対のものとして現代に遺された「資料」を取り上

げ、その現代的意義を考えることを目的に、世界各地をフィールドに活躍する研究者を招き、鳥居の学問と資料を国際的な視点から問い直し、鳥居の再評価を図った。

- 主 催 徳島県
一般財団法人自治総合センター
- 後 援 総務省
- 日 時 3月21日（日）13：00～17：00
- 会 場 文化の森イベントホール
- 参加者 100人
- 内 容

【海外からのメッセージ】

ラファエル・アバ氏（スペイン国立セビリア大学）
王 長華氏（国立台湾史前文化博物館）

【講演】

「戦後日本考古学史における鳥居龍蔵の再評価」
中村 豊氏（徳島大学）
「鳥居龍蔵が残した千島と権太の先住民関連資料～100年後のいま、できること～」
齋藤玲子氏（国立民族学博物館）
「鳥居龍蔵の学術遺産と中国研究～成果の紹介と

若干の提言～」

吉開将人氏（北海道大学）
「鳥居龍蔵の台湾研究～残された資料の今日的意義～」
宮岡真央子氏（福岡大学）〔オンライン参加〕
「南米ペルー考古学との出会い～ナショナリズムを越えた文明史観～」
関 雄二氏（国立民族学博物館）
十代の提言「鳥居龍蔵に学び、未来を拓く」
徳島県立小松島高等学校小松島歴史クラブ
（森紅志郎氏、中村信志氏）

【総括コメント】

「鳥居龍蔵とファミリー」
天羽利夫氏（鳥居龍蔵を語る会）

【パネルディスカッション】

パネリスト 中村 豊氏
齋藤 玲子氏
吉開 将人氏
宮岡真央子氏〔オンライン参加〕
関 雄二氏
長谷川賢二（当館）
コーディネーター 石井伸夫（当館）



「海外からのメッセージ」（ラファエル・アバ氏）の様子



講演（関 雄二氏）の様子



「海外からのメッセージ」（王 長華氏）の様子



パネルディスカッションの様子

●関係出版物

国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会—その学問と資料の意義を問う—」講演要旨集
 2021年3月21日発行、A4判、60ページ、500部
 編集：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
 発行：徳島県

4. 国際交流

国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会」の講演者のひとり宮岡真央子氏（福岡大学）の仲介を得て、国立台湾史前文化博物館との相互交流を行うこととなった。3年度から具体化に向けて取り組む予定である。



国際シンポジウムチラシ（上：表面 下：裏面）

VI 管理運営

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和3年4月1日現在）

館長1 一副館長 [1] 一企画・学芸担当5 [5]
 (事務職員 [2]
 学芸員3 [3]、
 会計年度任用職員2)
 []は兼務者数(外数)

(2) 職員名簿（令和3年4月1日現在）

館長 長谷川賢二
 副館長 東條 揚子（文化の森振興センター副所
 長本務）
 〈企画・学芸担当〉
 課長 大橋 俊雄（県立博物館課長(人文担当)
 本務）
 課長補佐 森 篤之（県立博物館課長補佐本務）
 係長 丸山 直生（県立博物館係長本務）
 学芸係長 下田 順一
 学芸係長 松永 友和（県立博物館学芸係長本務）
 主席 石井 伸夫
 主任 岡本 治代（県立博物館主任本務）
 主事 小倉 和也
 会計年度任用職員 松浦まり子
 会計年度任用職員 宮田正友美

(3) 人事異動

〈令和3年4月1日付〉転入者のカッコ内は前職
 転入(兼務)：森 篤之・課長補佐(中央こども女
 性相談センター・課長補佐)
 ※県立博物館課長補佐本務
 兼務：小倉和也・文化の森振興センター

(4) 令和2年度会計年度任用職員

松浦まり子(令和2.4.1～令和3.3.31)
 宮田正友美(令和2.4.1～令和3.3.31)

2. 防災及び危機管理

(1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、当館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に供えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

令和元年度末から流行が始まった新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、次のとおり対策を講じた。
 ①全国的に発出された緊急事態宣言を受けた臨時休館(4月22日～5月8日、レファレンス業務は継続)及び代替サービスの推進(ホームページコンテンツの拡充)
 ②感染拡大防止に配慮した利用者サービスの実施
 (公財)日本博物館協会が作成したガイドライン等を踏まえて、展示観覧や行事参加においてはアルコールによる手指消毒や検温、マスク着用などの協力を要請したほか、所要箇所にアクリル製パーティションや除菌装置を設置した。また、展示に関しては、参加者の密集による感染リスク低減に留意し、必要に応じて入場制限を行い、各種の行事は全面的に規模を縮小し、屋内の場合は換気を徹底することとした。一方、職員もマスク着用や手指消毒などを徹底した。

(3) 防災訓練

3月19日(金)、二十一世紀館を中心に、自衛消防訓練を行った。消防設備についての講義や現場確認、取扱説明を受けたほか、水消火器を使用した消火訓練を行い、防災意識を高めた。

3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会

鳥居龍蔵記念博物館協議会は、運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定にもとづき設置されている。委員は、県立博物館協議会委員による兼務である。

令和2年度は、県立博物館協議会を兼ねて1回開催した。

●令和2年度鳥居龍蔵記念博物館協議会

日時：令和2年9月30日（水）

10：00～11：30

会場：徳島県立博物館 講座室

議事

- (1)令和元年度事業の実施状況について
- (2)令和2年度予算及び事業概要について

鳥居龍蔵記念博物館協議会委員

(令和3年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	川真田早苗	元文部科学省学習指導要領等改善検討指導・助言委員 北陸学院大学教授
社会教育	○安倍 久恵	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原 多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	大栗 美菜	徳島市立考古資料館学芸員
学識経験	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館准教授
	河野まゆ子	JTB総合研究所地域戦略部長・主席研究員
	◎町田 哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村 幸江	阿波市国際交流の会会長
	三浦 麻衣	徳島新聞社報道本部記者
家庭教育	角元 良	八万小学校PTA会長

◎は会長、○は副会長

4. 視察等来訪者

7月30日 北海道大学 吉開将人氏

11月18日～11月19日

国立民族学博物館共同研究「モンゴルに関する画像記録を用いた地域像の再構築」プロジェクト（代表 国立民族学博物館客員教員 小長谷有紀氏）一行

2月24日 桜美林大学 中生勝美氏

3月23日 昭和女子大学 ボルジギン・フスレ氏

VII 観覧者統計

●令和2年度 常設展観覧者数

月	開館日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者															観覧者総数		
		個 人			団体(割引20%)		有 料 観覧者 計	学 校 教 育						個 人					無 料 観覧者 計							
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生		小・中 学生	幼稚園・ 保育園 園数	小学校 校 人数	中学校 校 人数	高 校 校 人数	計 校 人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者		その他						
4月	18	7	6	0	12	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	4	33	38	25	112	137
5月	20	10	8	0	13	1	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	4	0	6	43	109	212	244
6月	25	24	12	0	16	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	109	2	0	9	55	123	298	350
7月	27	43	7	2	29	0	0	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	338	13	7	21	122	630	1,131	1,212
8月	26	46	1	0	26	1	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153	6	8	9	86	221	483	557
9月	26	57	6	0	16	3	0	82	0	0	2	133	0	0	0	0	3	133	53	2	3	15	75	171	452	534
10月	27	68	3	16	36	1	144	268	0	0	3	238	0	0	0	0	3	238	26	4	8	26	93	82	477	745
11月	25	18	3	0	11	0	0	32	1	87	4	162	1	36	0	0	6	285	149	10	7	17	202	626	1,296	1,328
12月	24	39	5	0	12	0	0	56	0	0	2	213	0	0	0	0	2	213	35	8	3	13	58	76	406	462
1月	24	28	5	0	31	3	0	67	0	0	1	13	0	0	0	0	1	13	28	7	1	7	92	71	219	286
2月	24	19	4	0	15	1	0	39	0	0	1	110	0	0	0	0	1	110	73	9	3	11	110	230	546	585
3月	26	36	10	4	20	1	0	71	1	19	0	0	0	0	0	0	1	19	49	9	5	8	80	95	264	335
計	292	395	70	22	237	11	144	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775

(※) 新型コロナウイルス感染症対策のため、4月22日(水)から5月8日(金)まで臨時休館。

●常設展観覧者数累計

年度	開館日数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者												観覧者総数							
		個 人			団体(割引20%)		減免(割引50%)					有 料 観覧者 計	学 校 教 育						個 人						無 料 観覧者 計						
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	大 人	高齢者・ 障害者	計	高校・ 大学生		小・中 学生	幼稚園・ 保育園 園数	小学校 校 人数	中学校 校 人数	高 校 校 人数	計 校 人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者			その他					
平22	121	909	33	6	66	0	0	790	49	839	0	0	1,853	9	540	15	851	2	12	1	15	27	1,418	1,259	60	37	—	—	3,432	6,206	8,059
平23	309	895	77	13	71	44	0	556	84	640	0	0	1,740	1	90	32	2,179	7	641	3	332	43	3,242	2,950	270	214	—	—	8,510	15,184	16,924
平24	308	621	106	4	65	0	0	120	22	142	0	0	938	2	182	33	2,450	2	9	2	341	39	2,982	3,089	225	135	129	829	7,256	14,645	15,583
平25	307	506	176	4	48	48	0	—	—	—	—	—	782	10	538	36	2,197	1	3	1	142	48	2,880	2,886	294	158	203	1,071	6,382	13,874	14,656
平26	307	436	150	9	110	18	0	—	—	—	—	—	723	8	381	32	1,755	5	97	3	335	48	2,568	2,770	200	76	320	1,575	6,080	13,589	14,312
平27	308	409	105	1	266	50	5	—	—	—	—	—	836	3	250	14	644	0	0	1	37	18	931	3,334	323	168	398	2,111	7,964	15,229	16,065
平28	308	389	83	1	202	13	2	—	—	—	—	—	690	4	180	7	120	2	81	1	25	14	406	4,310	325	198	415	1,897	9,698	17,249	17,939
平29	308	338	70	1	191	21	0	—	—	—	—	—	621	5	164	5	343	1	59	3	264	14	830	3,143	267	188	238	1,697	7,203	13,566	14,187
平30	308	276	71	2	147	43	1	—	—	—	—	—	540	6	119	11	373	1	113	1	12	19	617	2,445	206	184	229	1,662	7,035	12,378	12,918
令1	307	260	51	0	130	30	4	—	—	—	—	—	475	2	56	23	697	0	0	1	32	26	785	3,020	208	160	141	1,728	8,298	14,347	14,822
令2	292	395	70	22	237	11	144	—	—	—	—	—	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775
計	3,183	5,434	992	63	1,533	278	156	1,466	155	1,621	0	0	10,077	52	2,606	221	12,478	22	1,051	17	1,535	313	17,670	30,279	2,453	1,567	2,248	13,624	74,317	142,163	152,240

(※) 平成24年9月より、高齢者(65歳以上)及び障がい者は無料。

●企画展観覧者数累計

企画展名	開催期間	開催日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者					観覧者総数	
			個 人			団体(割引20%)		減免(割引50%)		有 料 観覧者 計	個 人					無 料 観覧者 計
			一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般		高齢者・ 障がい者	高校・ 大学生	小・中 学生	その他		
鳥居龍藏の見た台湾	平24. 1. 28~3. 11	38	549	21	1	14	1	0	559	34	1,179	20	1,037	363	1,420	2,599
鳥居龍藏の国内調査 —沖繩・南九州—	平26. 1. 25~3. 2	32	270	22	0	11	0	0	139	—	442	9	595	707	1,311	1,753
よみがえる縄文世界 —鳥居龍藏の信州調査—	平27. 1. 24~3. 1	32	377	40	7	78	0	0	285	—	787	39	805	1,196	2,040	2,827
鳥居龍藏 —世界に広がる知の遺産—	平28. 1. 23~2. 28	32	179	19	0	94	2	0	266	—	560	61	309	901	1,271	1,831
遙かなるマチュピチュ —鳥居龍藏、南アメリカを行く—	平29. 1. 28~3. 5	32	536	29	2	194	4	1	592	—	1,358	30	494	1,023	1,547	2,905
鳥居龍藏、日本人の起源に迫る —本山彦一との交流—	平30. 1. 10~3. 18	32	144	10	0	49	0	0	167	—	370	25	283	1,068	1,376	1,746
鳥居龍藏と小金井良精 —日本人の起源を求めて—	平31. 1. 26~3. 3	32	122	5	0	43	2	0	139	—	311	16	484	1,024	1,524	1,835
文化財調査の先覚者 鳥居龍藏、徳島を探る	令2. 2. 8~3. 15	32	120	9	1	49	0	0	165	—	344	90	312	735	1,137	1,481
鳥居龍藏の学問と世界	令3. 2. 13~3. 21	32	60	2	2	43	0	0	111	—	218	5	43	280	328	546
合 計		294	2,357	157	13	575	9	1	2,423	34	5,569	295	4,362	7,297	11,954	17,523

(※) 平成24年9月より、障がい者は無料。

●特別陳列観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
鳥居龍蔵の見た北東アジア	平23. 10. 29～12. 4	32	4,534
鳥居龍蔵とアイス	平25. 1. 26～3. 3	32	5,465
合 計		64	9,999

●人権啓発展観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2010年度人権問題啓発展	平22. 11. 30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23. 12. 6～12. 11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24. 12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25. 12. 4～12. 10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26. 12. 10～12. 16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27. 12. 9～12. 15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28. 12. 9～12. 15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29. 12. 6～12. 12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30. 12. 5～12. 11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令1. 12. 4～12. 10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2. 12. 9～12. 15	6	447
合 計		66	3,913

●啓発展を除く共催事業観覧者・参加者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵が見た「祭り」「踊り」	平23. 7. 20～23. 8. 28	36	4,038
合 計		36	4,038

(※) 観覧者数は開催期間中の常設展来館者数合計。

●館内各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵の南アメリカ調査と乗り物	平29. 2. 4～29. 4. 23	68	11,031
鳥居龍蔵生誕150周年「鳥居龍蔵とは?」	令2. 7. 21～2. 11. 29	114	8,230
合 計		182	19,261

●利用者総数年度別一覧

年度	常 設 展		常設展 観覧者 合 計	企画展 観覧者	特別陳列 観 覧 者	移動展等	普及行事 参 加 者	その他	利用者総数
	有 料 観覧者	無 料 観覧者							
平22年度	1,853	6,206	8,059	—	—	—	236	670	8,965
平23年度	1,740	15,184	16,924	2,599	4,534	—	412	4,421	28,890
平24年度	938	14,645	15,583	—	5,465	—	1,968	356	23,372
平25年度	782	13,874	14,656	1,753	—	—	3,387	370	20,166
平26年度	722	13,589	14,311	2,827	—	—	4,167	336	21,641
平27年度	836	15,229	16,065	1,831	—	—	2,898	527	21,321
平28年度	690	17,249	17,939	2,905	—	8,439	4,521	844	34,648
平29年度	621	13,566	14,187	1,746	—	2,592	3,282	430	22,237
平30年度	540	12,378	12,918	1,835	—	—	3,174	649	18,576
令元年度	475	14,347	14,822	1,481	—	—	3,047	479	19,829
令2年度	879	5,896	6,775	546	—	8,230	380	1,823	17,754
累 計	10,076	142,163	152,239	17,523	9,999	19,261	27,472	10,905	237,399

(※) 特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数

VIII 施設の概要

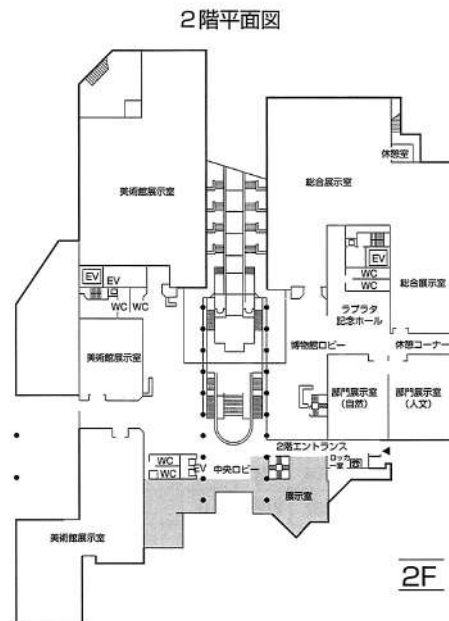
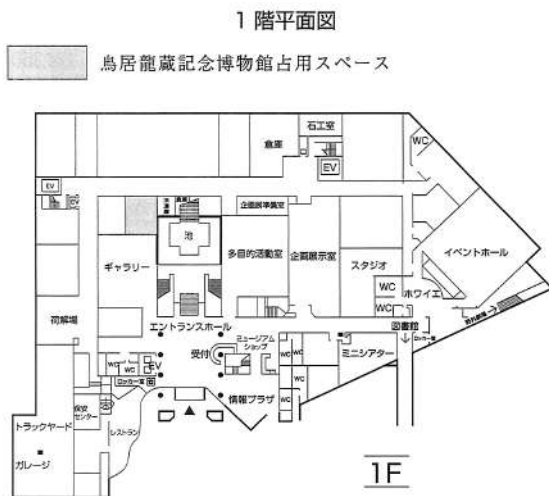
1. 沿革

- 昭和40年 3月 鳴門市撫養町の妙見山に旧館（徳島県立鳥居記念博物館）開館
- 平成18年 7月 鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会設置
- 19年12月 鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会が「鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会報告書」を知事に提出
- 20年 3月 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会設置
- 7月 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会が「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（仮称）展示計画書」をとりまとめ
- 21年 3月 展示実施設計完了
- 7月 展示工事着手
- 22年 3月 旧館閉館
- 9月 展示工事竣工
- 11月 開館
- 28年 1～2月 開館5周年記念事業として、企画展「鳥居龍蔵—世界に広がる知の遺産—」及び国際講演会「鳥居龍蔵の再発見—国内外の視点から—」を開催
- 令和 2年 4月 教育委員会から知事部局に移管

令和 2年12月～令和 3年 3月 鳥居龍蔵生誕150周年記念・開館10周年記念事業として、記念論集「鳥居龍蔵の学問と世界」を出版。また、企画展「鳥居龍蔵の学問と世界」、「鳥居龍蔵生誕150周年記念全国高校生歴史文化フォーラム2020 in 徳島」、国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会—その学問と資料の意義を問う—」を開催

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 延床面積 485㎡（展示室、収蔵庫、器材庫等鳥居龍蔵記念博物館占用スペース）
- 構造規模 鉄筋コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 改築工事 岡島建築事務所（設計）・小野建設（施工）
- 展示工事 （株）丹青社（設計・施工）



(※) 鳥居龍蔵記念博物館の占用スペースのない階は平面図を省略した。

IX 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 令和3年3月19日 徳島県条例第15号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

(徳島県立図書館、徳島県立博物館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立二十一世紀館の業務は省略)

名 称	業 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 (以下「鳥居記念館」という。)	1 鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 2 鳥居記念館に関する調査研究を行うこと。 3 鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 4 その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(他館の各協議会の所掌事務は省略)

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

- 4 (省略)
- 5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 委員は、再任されることができる。
- 7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分		単 位	金 額			
			常 設 展		額 画 展	
			個 人	団 体 (20人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
美術館及び鳥居記念館資料	小・中学生	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
	高校・大学生等	1人1回	100円	80円		
	一般	1人1回	200円	160円		

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生等」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者(学齢に達しない者を除く。)をいう。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第50号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館(以下「鳥居記念館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 鳥居記念館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1)月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日)
- (2)1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 鳥居記念館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 鳥居記念館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1)泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2)前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために鳥居記念館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、鳥居記念館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第44号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則 [抜粋]

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号

最近改正 令和3年3月31日 徳島県規則第22号

第1章 総 則 (省略)

第2章 事務部局 (省略)

第3節 センター等 [鳥居龍蔵記念博物館に係る内容のみ]

第1款 設置等

(法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等)

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

(分掌事務)

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

(所長)

第38条 センター等に所長（(省略)図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(副所長等)

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

(主幹等)

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課長補佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職 務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 主任主事等の職及び職務

センター等	分 掌 事 務
鳥居記念館	(1)鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)鳥居記念館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名 称	庶務を担当する組織
74	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館	鳥居記念館

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報 第11号（令和2年度）

令和3年(2021)7月31日 発行

編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園内）

Tel. 088-668-2544 Fax. 088-668-7197

Eメール torii-museum@bunmori.tokushima.jp

ホームページ <https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp/>

印 刷：徳島県教育印刷株式会社
